



平成23年 7月 4日発行

かわらばん

第145号

編集・発行

大阪府立 呼吸器・アレルギー医療センター

大阪府羽曳野市はびきの3丁目7-1

TEL: 072-957-2121

FAX: 072-958-3291

HP: <http://www.ra.opho.jp>

E-mail: kokyucen@ra.opho.jp

消化器・乳腺外科について

消化器・乳腺外科主任部長

しげおか ひろのり
重岡 宏典

私たち消化器・乳腺外科では、常勤の消化器外科医師3人が非常勤の内科・外科医師や検査技師、看護師達とチームになって、消化器や乳腺疾患の診断や治療、さらに手術後の経過観察などを行っています。診断のために行う検査としては、内視鏡検査、腹部・乳腺・甲状腺の超音波検査、X線検査やマンモグラフィーなどに関わっています。

手術を行っている主な疾患としては、胃がん・大腸がん・乳がん・甲状腺がんなどの悪性腫瘍や胆石症・胆嚢ポリープ・虫垂炎・腹膜炎・腸閉塞・肛門疾患(痔)・単径ヘルニアなどの良性疾患まで、幅広く行っています。また、がんの治療につきましては開腹あるいは腹腔鏡による手術を行って切除するだけでなく、早期の胃がんや大腸がんの場合には、適応があれば、内視鏡による治療も行っています。

食物が上手く飲み込めない、または食べるとむせて肺炎を繰り返してしまう嚥下障害という症状がある患者さんには、内視鏡(胃カメラ)を使ってお腹の皮膚を通して胃に直接栄養を入れるためのチューブを留置したり、点滴や抗癌剤投与を目的とした中心静脈栄養ポートの皮下への埋め込みも行っています。

どのような治療を行う場合でも、十分な説明と同意(インフォームド・コンセント)のもとに最適な治療法について御相談しますので、気になることがありましたら、お気軽にお尋ね下さい。よろしくお願いいたします。



古くて新しい病気 ～結核～

感染症内科副部長

たむら よしたか
田村 嘉孝

結核は約1μm程度の大きさの結核菌が生じる、主に肺の病気です。古代エジプトのミイラからも結核の病巣が見つかっており、人類と結核の歴史は紀元前から始まっていました。わが国でも弥生時代の人骨から結核病巣が見つかるなど古い歴史を持ちますが、明治～昭和の初期の近代化とともに爆発的に患者が増加し、かつては「亡国病」「国民病」と言われたこともありました。しかし、ストレプトマイシンを始めとした抗生物質による治療の進歩などにより、20世紀後半には順調に減少していました。

再興感染症とは、いったん制圧できたように思われた感染症が、人口増加や衛生環境の格差、公衆衛生対策の弱体化、薬剤耐性菌の増加、温暖化や開発による生態系の変化などの理由により、再び問題となる可能性のある感染症のことを指します。じつは結核は、多くの先進国で再興感染症として注目されています。

わが国の結核再興の要因は、都市への人口集中や、結核発病リスクの高い高齢者の増加、結核に無関心のため患者発見が遅れること、などです。都市や高齢者の問題を解決することは容易ではありません。しかし、結核は空気感染にて広がる感染症ですから、咳やくしゃみのある人がマスクをする(してもらう)ことや、結核と診断された場合は速やかに病院で治療を受けることなどにより、結核を減



らすことができることも知られています。私たちひとりひとりが結核への関心を持ち続け、その予防に心がけることが古くて新しい結核を再び制圧するためのカギとなります。

結核のことが気になったり、結核が疑われるようなことがありましたら、当院の結核専門外来にぜひご相談ください。

<臨床検査科の紹介シリーズ⑦>

結核菌検査について

臨床検査科細菌検査室

よしだ ひろこ
吉多 仁子

結核菌の検査室では、患者様から出された痰をスライドグラスに塗って、染色液で色をつけ、顕微鏡で結核菌の有無をみます。顕微鏡で菌が見えることを「塗抹陽性」といい、顕微鏡で菌が見えなかったことを「塗抹陰性」といいます。

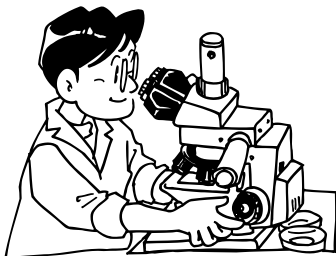
顕微鏡検査の後、痰の中の結核菌が発育できるよう培地という中に入れ、数週間様子をみます。「塗抹陽性」や「塗抹陰性」の痰からも結核菌、または結核菌の親類にあたる菌が増えて目に見えるコロニーになって出てきます。これらの菌が出てくることを「培養陽性」といいます。「培養陽性」になり菌が出てくると、飲んでいるお薬が「効く」「効かない」を調べる薬剤感受性検査を行います。コロニーが出なかった痰は「培養陰性」といい、一度も「培養陽性」にならなかった患者様には薬剤感受性検査はできません。

近年、「塗抹陽性」の痰を「結核菌遺伝子検査」という検査をすることで結核菌かどうか分かるようになりました。培養陽性になるまでに数週間かかり、結核菌の親類の菌だった場合、飲むお薬も異なり、周りの人達へ結核がうつっていないか調べる接触者検診もしなくてすむ、なにより患者様の精神的負担が早く軽減できるという大きなメリットがあります。遺伝子は遺伝子でも菌の遺伝子を増やし検査をするという方法です。

以上のような菌検査に加え、血液の検査から結核の診断法としてクオンティフェロン(QFT)検査も行っています。QFT 検査は結核菌に感染したことがあるかどうかを調べる検査です。すでに感

染があった患者様から採血した血液中の白血球の一種のリンパ球と採血管の中に入れてある結核菌と同じタンパク質が会うことで結核菌に対する抗体(インターフェロン)がリンパ球で作られるという原理を使っています。この方法は「塗抹陰性」「培養陰性」の患者様に、以前のツベルクリン反応より結核感染の診断に、より役だっています。

当院は結核の基幹病院であり、結核菌の検査の精度を向上させるべく日々努力しています。



7月の教室案内

*カンガルー教室	●7月6日・13日・27日	午後1時半～	第1会議室
*喘息教室	●7月21日	午後2時～	第2会議室
*禁煙教室	●7月7日	午後3時45分～	医療情報コーナー

■□ 敷地内タバコ持ち込みゼロ! □■

当センターの敷地内は、禁煙となっております。敷地内へのタバコの持ち込みも禁止です。

ご協力をお願い致します。

